

( 様式-1 )

# 履 歴 書

ふりがな 氏名		男・女	〒	現住所
生年月日(年齢)	(西暦) 年 月 日生[ 歳]		TEL ( ) -	FAX ( ) -
			E-mail	
学 歴			資格(免許, 学位等)	
年月(西暦)	事 項	年月(西暦)	事 項	
職 歴				
年月(西暦)	事 項			
学会名及び社会における活動等				
年月(西暦)	事 項			
賞 罰				
年月(西暦)	事 項			
(西暦) 年 月 日	上記のとおり相違ありません。			印
	氏名			

<履歴書記載上の注意事項>

1. 年号  
全て西暦で記載してください。
2. 学歴欄  
(1) 大学学部入学以降の学歴を記入願います。  
(2) 研究生等の研究歴があれば記入願います。
3. 資格欄  
免許(登録番号), 専門医等(登録番号)及び学位(授与大学名, 学位記番号)等資格を記入願います。
4. 職歴欄  
(1) 職歴(非常勤講師を除く。)は全て記載してください。  
(2) 外国出張, 海外研修及び研究休職等のうち, 2か月以上のものについて記入願います。  
(注) 期間, 国名, 受入れ機関名及び身分(原語)等を記入願います。
5. 学会及び社会における活動等欄  
(1) 所属する全ての学会名のほか, 役職名(評議員等)を期間を付して記入願います。  
(2) 学術雑誌の編集委員等も記入願います。
6. 賞罰欄  
学会賞等の受賞について記入願います。

( 様式2 -1 )

1. 著書

( 様式2 -2 )

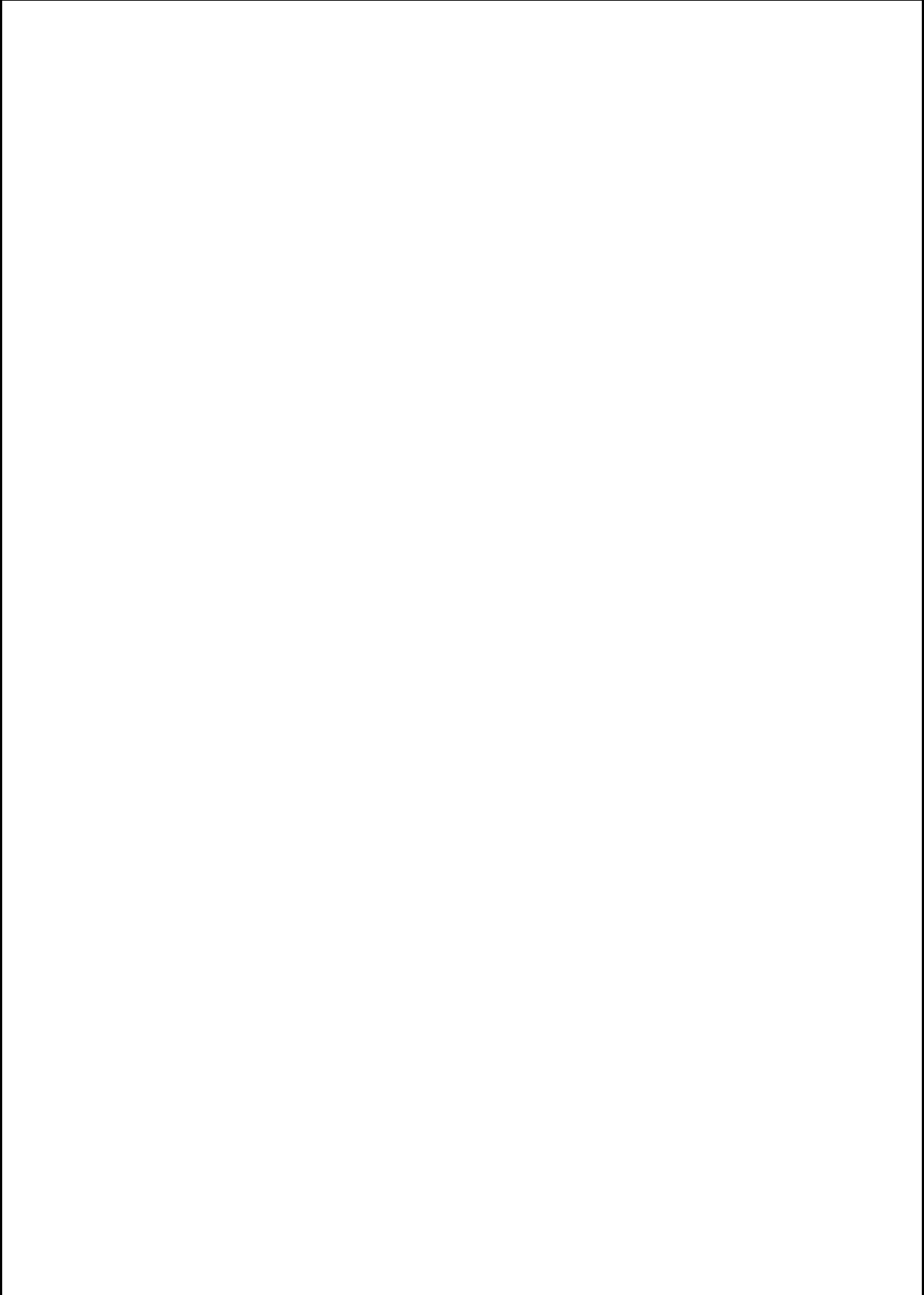
2 . 原著論文

( 様式2 -3 )

3. 症例報告

( 様式2-4 )

4. 総説



( 様式2 -5 )

5. その他

A large empty rectangular box with a black border, occupying most of the page below the header. It is intended for the user to provide details for the '5. その他' (Other) category.

( 様式2 -6 )

6 . 学会発表

--



<教育研究業績書記載上の注意事項>

1. 類別は、1. 著書、2. 原著論文、3. 症例報告、4. 総説、5. その他、6. 学会発表の順とし、各類別にはまず最初に外国語の論文を、次に日本語の論文をそれぞれ古い方から発表年（西暦）順に記入してください。  
なお、類別2及び3については、査読制のあるものに限定してください。  
また、プロシーディングや文部省研究報告書、翻訳書は、「5. その他」に分類してください。  
整理番号は、各類別に1から記入してください。
2. 掲載予定の論文には、掲載証明書のコピーを添付してください。
3. 学会発表は、まず最初に国際学会を、次いで国内学会の順に、招へい講演、特別講演シンポジウム（パネルディスカッションやワークショップ等の主題演題を含む。）に分けて記入してください。国内学会の一般演題については、代表的なもの10編までを記載して下さい。
4. 業績は、全員の氏名を記載順に記入し、本人の氏名にアンダーラインを引いてください。
5. 記入にあたっては、10～12Pの文字を使用するとともに、別紙記載例を参考にしてください。

( 様式2 -1 )

1. 著書

欧 文

1. Tateyama T, Sugitani S  
Metabolism of docosahexaenoic acid in the pineal gland.  
In Fatty acids metabolism in the nervous system, Malsaris W and Ma  
Y-Y( Ed. ) , 665-684, Boston, Saunders, 2002
2. Yakushi Y, Tateyama T, and Sugitani S  
Eicosapentaenoic acid and visual acuity in Japanese.  
In Brain and food: 15th Keystone Conference, Mehta S and Plevin A( Ed. ) ,  
London, Academic Press. In press

・  
・

和 文

1. 立山太郎、杉谷三郎  
脂肪と健康  
実地医家のための生化学シリーズ, 10, 日本臨床生化学会編, 山と溪流社,  
富山, 2006
2. 薬師由美、立山太郎  
インスリン抵抗性改善薬  
治療薬テキスト 98, 川端康茂編, 123-125, 北山堂, 東京, 2008

・  
・

( 様式2 -2 )

2. 原著論文

欧 文

1. Tateyama T, Tsurugi J, Yakushi Y, Zinzu K, and Dainichi M  
Association between certain foods and risk of cerebrovascular accident in Japanese women.  
Br Med J, 241: 771-773, 2008
2. Tsurugi J, Tateyama T, Yakushi Y, Zinzu K, and Dainichi M  
Comparison of pulse wave velocity of the aorta between inhabitants of fishing and farming villages in Japan.  
Atherosclerosis, 63: 162-170, 2011

・  
・

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、鍬崎山女、神通健二、大日正  
超高齢者における血清脂肪酸組成の検討  
日本動脈硬化学会雑誌, 52: 654-660, 2009
2. 薬師由美、鍬崎健二、立山太郎、神通健二、大日正  
大動脈脈波伝播速度・・・農村と漁村住民との比較検討  
日本内科学会雑誌, 96: 750-758, 2010

・  
・

( 様式2 -3 )

3. 症例報告

欧 文

1. Tateyama T, Tsurugi I, Yakushi Y, and Sugitani S  
Autoimmune hyperlipidemia in a patient of systemic lupus erythematosus  
Am J Clin Nutr, 30: 230-236, 2005
2. Yakushi Y, Tateyama T, Tsurugi I, Kuwasaki M and Sugitani S  
Cryptococcal pleural effusion in a patient with chronic renal failure receiving  
long term corticosteroid therapy  
N Engl J Med, 285: 112-115, 2008

・  
・

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、楢崎山女、大日正  
溪流釣りが原因で発症したと思われる筋挫滅症候群の一例  
日本腎臓病学会雑誌, 29: 321-326, 2007
2. 剣岩魚、立山太郎、磯野波兵、黒部五郎  
ヤマメ生食が原因となった広節裂頭条虫症の一例  
日本内科学会雑誌, 29: 321-326, 2009

・  
・

( 様式2 -4 )

4 . 総説

欧 文

1. Tateyama T and Sugitani S  
Cardi ovascular effects of n-3 fatty aci ds.  
l ancet, 3331: 449-457, 2002
2. Tateyama T  
N-3 polyunsaturated fatty aci ds and cytokine producti on i n health and  
di sease  
Ann Nutr Metab, 45: 203-234, 2006

・  
・

和 文

1. 立山太郎  
EPAの生化学  
喘息, 15: 35-40, 2005

・  
・

( 様式2 -5 )  
5. その他

欧 文

1. Tateyama T  
Fish and health  
Proceeding of 16th annual meeting of the American Association of  
Fishermen and Anglers, 210-222, Baltimore, USA, 2002

・  
・

和 文

1. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男、杉谷三郎  
ループス肺臓炎の治療  
厚生省特定疾患「全身性エリテマトーテス」研究班平成3年度報告書,  
201-230, 2001
2. 立山太郎  
ループス腎炎  
デュボア 全身性エリテマトーテス 第4版(日本語翻訳書), 654-720,  
立山書院, 東京, 2005
3. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男  
DHAと心筋梗塞・不整脈  
平成9年度水産資源からのDHA等の抽出精製及び生理機能の研究に関する報告書  
120-145, 社団法人マリノフォーラム21, 2007

( 様式2 -6 )

6. 学会発表

国際学会

○招聘講演

1. Tateyama T

Lyspro in sul in—a new strategy for diabetes therapy  
33rd symposium of diabetes care, Bethesda, MD, USA, 2007

・  
・

○特別講演

・  
・

○シンポジウム

・  
・

○一般演題

・  
・

国内学会

○招聘講演

1. 立山太郎

インスリン作用とその異常-代謝作用から増殖作用まで  
第51回日本糖尿病学会年次学術集会、熊本、2008

・  
・

○特別講演

・  
・

○シンポジウム

・  
・

○一般演題

・  
・